

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：34303

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10998

研究課題名（和文）着床前診断・スクリーニングを受ける不育症女性の看護ケアシステムの構築

研究課題名（英文）Development of care model for women with recurrent pregnancy loss who does considering preimplantation genetic diagnosis and screening (PGD/S)

研究代表者

温井 祥子（美甘祥子）（Nukui, Shoko）

京都先端科学大学・健康医療学部・准教授

研究者番号：10613804

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：着床前診断・スクリーニングの適応となる不育症女性は、繰り返す流産による喪失体験に加え、体外授精による身体面への負担や胎児への不安、倫理的問題に直面し心理面への負担が大きい。本研究では、ソーシャルメディア上の投稿内容を分析し、不育症女性の着床前診断への語りと情報ニーズについて質的帰納的に分析した。不育症女性は、着床前診断について具体的な情報を求めていること、結果への嘆きや継続への悩みが語られていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

着床前診断・スクリーニングの実施数が多い現状の中で、不育症女性の着床前診断についての語りと情報ニーズについて明らかにすることができた。本研究で明確になったことを基盤に、着床前診断・スクリーニングを希望する不育症女性への看護支援の構築に貢献できる。

研究成果の概要（英文）：Women with infertility feel a sense of loss due to repeated miscarriages. Furthermore, they have the physical burden of in vitro fertilization, fetal concerns, and ethical issues associated with the use of preimplantation genetic screening (PGS). These women have significant psychological burdens. The subjects of this study were social media postings by women with infertility. This study was inductive content analysis of their thoughts about PGS and their information needs. Women with infertility sought specific information about PGS. In addition, they spoke of their lamentation over the results and their concerns about continuing the process.

研究分野：周産期

キーワード：着床前スクリーニング 着床前診断 不育症 看護 意思決定

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本では、不育症カップルの中でも、遺伝子疾患の保因者に対して行う着床前診断 (preimplantation genetic diagnosis: PGD) は臨床研究として実施され、2015 年までの承認症例数の 3/4 を習慣流産が占めている。また、胚に偶発的に発症している染色体の数的異常に対してスクリーニング検査を行う目的で実施される着床前スクリーニング (preimplantation genetic screening: PGS) も現在臨床研究が進んでいる。

着床前診断や着床前スクリーニングには、体外授精による女性への身体的負担や経済的負担、胎児疾患のリスクが増加する可能性への不安、命の選択とダウン症の人々の生の否定といった倫理的問題がある。一方で、流産による身体的・精神的苦痛を防ぐことができ、羊水検査などの出生前診断で異常と診断された場合に選択される人工妊娠中絶をも防ぐことができるため、不育症の治療法の 1 つとして注目されている。

着床前診断や着床前スクリーニングを受ける不育症女性は多様な問題を抱えており、医療職者間で協力しサポートすることが重要である。特に、心理面に配慮した看護ケアが、様々な場面で必要である。さらに、日本独自の文化や倫理的背景が意識に大きく影響するため、日本人の心理面に重きを置いた看護ケアが必要となる。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は以下とする。

ソーシャルメディアでの不育症女性の書き込みを分析し、着床前診断・スクリーニングに関する心理や医療者に希望するサポートの情報ニーズを明らかにする(目的)。習慣流産の適応で着床前診断・スクリーニングを受けた経験のある女性にインタビューを行い、その際の思いと希望するサポートを明らかにする(目的)。COVID-19 の影響により、対象へのインタビューの実施には困難を極め、目的は実施に至らなかった。

### 3. 研究の方法

#### 1) 文献研究

2010 年 1 月から 2019 年 12 月までの間に公表された研究論文を CINAHL with full text と MEDLINE を用いて検索した。「Preimplantation genetic diagnosis or Preimplantation genetic screening」and 「Decision Making」を key word として原著論文を検索し 117 件が該当した。そのうち、論文の表題、要約、本文から着床前診断・スクリーニングを受けるか否かの意思決定を女性が行う要因に関する文献を抽出し、入手できた 18 件の文献を対象とした。対象とした 18 件の論文の発行年、研究目的・方法、対象属性より研究の動向をまとめた。次に、着床前診断・スクリーニングを受けるか否かの意思決定を女性が行う際の要因について記述内容を抽出し、類似性をまとめ分類して分析した。

#### 2) ソーシャルメディアでの不育症女性の書き込みの分析

不妊症女性と不育症女性のコミュニティサイトに 2016 年 3 月～2021 年 3 月に投稿された発言内容 19,068 件から、着床前診断に関する書き込みがあった 58 件を抽出し対象とした。抽出した 58 件を精読し、着床前診断を希望する女性の情報ニーズや思いの部分抜き出してコード化し、質的帰納的に分析し、カテゴリー化を行った。

### 4. 研究成果

#### 1) 文献研究

着床前診断・スクリーニングを受けるか否かの意思決定に影響する要因は、健康な子どもをもつことや上の子どもの治療のため、着床前診断・スクリーニングの経験/知識/価値観、子どもの有無、体外受精の経験、対象疾患の知識/近親者の発症、パートナーとの信頼関係、周囲のサポート、メディアの影響、母親の年齢、教育レベル、時間的制約、費用、倫理・宗教であった。着床前診断・スクリーニングを受けるか否かの意思決定は、対象の背景や知識、価値観など様々な要因が関連しており、それらを十分に理解した上で支援することの必要である。

#### 2) ソーシャルメディアでの不育症女性の書き込みの分析

不妊症女性と不育症女性のコミュニティサイト内の着床前診断に関する投稿 58 件から、着床前診断についての情報を教えて欲しいと書かれた内容を分析し、9 つのコードを抽出し、「着床前診断の実施施設」や「費用」、「成績」、「治療継続」の 4 つのカテゴリーに分類した。不妊症女性と不育症女性は、着床前診断に関して具体的な情報を求めている。

不妊症女性と不育症女性のコミュニティサイト内での着床前診断の語りの内容を分析し、54 のコードを抽出し、38 のサブカテゴリー、「着床前診断を実施した・希望する理由」、「着床前診断を受けることへの期待感」、「着床前診断を受けることへの困難感」、「着床前診断を受けることへの不安」、「着床前診断を受けても妊娠率が低い現状」、「着床前診断を受けたのに妊娠できない・継続できなかった結果への嘆き」、「着床前診断継続への悩み」、「着床前診断について相談できる人がいない」、「着床前診断を受けた方の体験談に励まされた」の 9 つのカテゴリーに分類した。周りに着床前診断について相談できる人がいないことや、ソーシャルメディア上の体験談に励まされたことが語られていた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 温井 祥子	4. 巻 7
2. 論文標題 PGT-A (Preimplantation genetic testing for aneuploidy: 着床前 診断) を受ける女性の不安に関する文献レビュー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康医療学部紀要	6. 最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 美甘 祥子	4. 巻 13
2. 論文標題 着床前診断・スクリーニングを受けるか否かの女性の意思決定に影響する要因に関する文献検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 97 104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 温井 祥子, 井田 歩美, 片岡 久美恵
2. 発表標題 不妊症・不育症女性の着床前診断に関する情報ニーズと体験の語り コミュニティサイトへの投稿内容の分析
3. 学会等名 第62回日本母性衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 美甘 祥子
2. 発表標題 着床前診断・スクリーニングを受けるか否かの意思決定を女性が行う際の要因に関する文献検討
3. 学会等名 母性衛生学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	中塚 幹也  (Nakatsuka Mikiya)  (40273990)	岡山大学・保健学研究科・教授   (15301)	
研究 分担者	井田 歩美  (Ida Ayumi)  (70549203)	摂南大学・看護学部・教授   (34428)	
研究 分担者	片岡 久美恵  (Kataoka Kumie)  (20613780)	岡山大学・保健学研究科・准教授   (15301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------